

第1部

映画 **父と暮せば** 上映会

(13:30～15:10)

(2004年・パル企画)

原爆投下後の広島を舞台に、生き残った負い目に苦しみながら生きる娘と、幽霊の姿で現れた父との心の交流を描いた人間ドラマ。井上ひさし原作。

1948年夏、広島。原爆によって目の前で父・竹造（原田芳雄）を亡くした美津江（宮沢りえ）は、自分だけが生き残ったことに負い目を感じ、幸せになることを拒絶しながら生きている。そんな彼女の前に竹造が幽霊となって現れ、心を開かせようとするのだが……



黒木和雄 戦争レクイエム三部作 宮沢りえ 原田芳雄 浅野忠信



第2部

被爆証言、命の限り

～オバマ大統領来訪の意味にも触れて～

(15:15～16:00)

3歳のとき広島で被爆した

飯田 國彦 さん

飯田さんは、3歳の時に爆心地から900mの広島市水主町で被爆し、家族を失った「原爆孤児」となりました。

長らく富山県において心理カウンセラーなどを勤め、今は故郷・広島と富山を往復しながら、残る力全てを被爆証言に注ぎ込む決意で活動されています。

今年5月、オバマ大統領の広島訪問という歴史的訪問が実現しました。飯田さんからは被爆証言とともに、平和への思い・願いについてもお話しいただきます。



広島の小中学生に被爆体験を語る飯田さん

とき **7月31日(日)**
13時30分～16時00分

会場 **タワー111 3Fスカイホール**
(富山駅北のインテック社のビルです)
富山市牛島新町5-5 TEL:076-432-1414

※駐車場は、近隣のタワー111パーキングやコインパーキング等のご利用が便利です

参加費 **無料** *会場準備のため、事前のお申込みをお願いします

主催 **核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会**

後援 **富山県被爆者協議会、富山県保険医協会**

参加申込書

Fax **076-442-3033**

<連絡先>

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13 フコク生命ビル11F
TEL:076-442-8000

申込者 氏名	
-----------	--

大人	人
中学生以下	人

被爆者アンケート



3歳で母と姉を奪われた

オバマ大統領の広島訪問にあたり、朝日新聞は全国各地に住む広島、長崎の被爆者にメールでアンケートをした。訪問を評価する人は9割、原爆投下について謝罪を求めないという人が6割を超えた。葛藤を抱えながら「核なき世界」の実現を願う姿が浮かぶ。

朝日新聞は昨年春、被爆者の中でメールの宛先がわからず合わせて被爆者約2万2千人にアンケートを送り、5762人が回答。オバマ氏の広島訪問が発表された翌日の今月11日、回答

「評価する」と答えた。広島で被爆した東京都の女性(76)は「まずは来て、現実を見るのが必要」、長崎で被爆した東京の男性(79)は「遅きに失したといえ、英断をたたえ」と理由を書いた。

「原爆投下について、オバマ大統領に謝罪を求めるとか」と問うと、6割の52人が「求めない」と回答。埼玉県の男性(72)は「謝罪は被爆者に感情的な満足を与えるかもれないが、米国民の感情を逆なでし、新たな摩擦を引き起こす」、神奈川県(73)は「米国内に謝罪を求めるなら日本も真珠湾攻撃を謝罪するべ

き」と説明した。「評価しない」という人はおらず、2人が無回答だった。

「謝罪を求めない」と答えた。理由を聞いた。74人中、9割にあたる74人

「謝罪を求めない」と答えた。理由を聞いた。74人中、9割にあたる74人

「謝罪を求めない」と答えた。理由を聞いた。74人中、9割にあたる74人

「謝罪を求めない」と答えた。理由を聞いた。74人中、9割にあたる74人

「謝罪を求めない」と答えた。理由を聞いた。74人中、9割にあたる74人

「謝罪を求めない」と答えた。理由を聞いた。74人中、9割にあたる74人



今春、広島で証言活動をするため富山県から帰郷した飯田国彦さん(右)広島市中区、青山芳久撮影

「核廃絶を」飯田さん、広島戻り証言活動

「核廃絶を」飯田さん、広島戻り証言活動

「核廃絶を」飯田さん、広島戻り証言活動

「核廃絶を」飯田さん、広島戻り証言活動